六二九三［形理］一氣は通塞す、
六二九四　大物は活立す、
六二九五−九六　大物は已に立てば。則ち小は其の中に散ず。蓋し
六二九七　物は體に依る。
六二九八　體は形に成る。
六二九九　形は位に依る。
六三〇〇　位は物に成る。
六三〇一　外を圓にして内を虚にすれば、則ち以て物を煮る可し、
六三〇二　實を内にして外を鋭にすれば、則ち以て甲を刺す可し、
六三〇三　同じく是れ鐵なりと雖も、形　異なれば則ち用　同じからざるなり、
六三〇四　外を圓にして内を虚にすると雖も、而も之を造るに木を以てすれば、則ち
六三〇五　水を受く可くして、火に當てる可からず、
六三〇六　内を實にして外を鋭にすると雖も、而も之を造るに土を以てすれば、則ち
六三〇七　弄す可くして、而も兵と爲す可からず、
六三〇八　其の形を同じくすと雖も、而も
六三〇九　體　異なれば則ち用は同じからざるなり、故に
六三一〇　同一の土泥は、之を瓦にすれば則ち風雨を覆う可し、
六三一一　之を甕にすれば則ち酒漿を盛る可し、
六三一二　同一の木片は、神を模せば而して後に蘋蘩の敬を致す可し、

六三一三　屐を削りて而して後に上泥の汚を避く可し、
六三一四　人造に因りて以て天造を窺う。
六三一五　其の轉持を爲すや、形の直圓に分る、
六三一六　其の山水を爲すや、形の拗突に由る、是を以て
六三一七　體は必ず形を成すと雖も、而も形は體に非ざるなり。
六三一八　形は必ず體に由ると雖も、而も體は形に非ざるなり。
六三一九　氣なる者は活するに依りて動なり、
六三二〇　物なる者は立するに依りて靜なり、
六三二一　立すれば則ち中外は位を成す、
六三二二　氣體は物を爲す、
六三二三　其の理は靜に於て立す、
六三二四−二五　其の氣は動に於て活す、是を以て氣は理に由りて布く、(PB 423)
六三二六　形は氣に由りて成る、
六三二七　理を以てせざれば、則ち鬱浡の活を運する所莫し、
六三二八　形を以てせざれば、則ち混淪の體を成する所莫し、
六三二九　混淪は坱然を得て居る、
六三三〇　鬱浡は衰然を得て行く、
*六三三〇1復元　而して形中も亦た自から氣物有り。形は理に依りて物を爲す、
*六三三〇2復元　氣は理に依りて形を布く、(I 447a)

*六三三一　故に通經衰衰、
*六三三二　塞緯坱坱、形理の祖なり。
六三三三　形理は痕を見して。物に從いて正斜を成す。
六三三四　正中、直圓は正を爲し、規矩は斜を爲す、
六三三五　斜中、塊歧は正を爲し、邪曲は斜を爲す、
六三三六　直圓は正にして形理を混成す、
六三三七　規矩は斜にして形理を粲立す、
六三三八　直矩は理を爲す、
六三三九　圓規は形を爲す、然り而して
六三四〇　散ずる者は其の理を邪曲にす、
六三四一　其の形を塊歧にす、
六三四二　坱なる者は圓の地なり、
六三四三　衰なる者は直の本なり、
六三四四　塊歧は則ち直圓の變なり。故に
六三四五　直矩の理、散の邪曲、
六三四六　圓規の形、散の塊歧、
六三四七　動なる者は理に循わざる能わず、
六三四八　靜なる者は形を成さざる能わず、

(PB 424)